

青葉通信

第7号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園

大会、学会で 成果発表

児童養護施設あおば館は、六月、鳥羽市で開かれた二十一年度中部ブロック児童養護施設・乳児院研究協議会三重大会で、児童心理療育施設わかば館は、九月、京都市で開かれた第五十回日本児童青年精神医学会総会でそれぞれ学園での取り組みを発表しました。

中養協大会で 進路プログラム

中養協大会では①浅田将義、山内早苗両心理士が「進路問題を控えた入所児童への意識形成プログラム」についての実践研究②倉橋幸彦、鶴飼直樹両指導員が「至誠学園の実践から学ぶ第三者への気づき」についての国内実習研究一を報告しました。二つの研究は、中部児童養護施設協議会が毎年、



関係施設の職員を対象に実施しており、あおば館の二組が二十年度研究に応募、採用されたの発表となりました。「進路プログラム」は、中学生を対象に行っている進路発見応援セミナーを踏まえ、「二年生の時期からその導入を図ることがさらに有効」と考える場を提供、子どもたち自身が将来に向かって自主的に行動してほしい」と考え、昨年十二月から今年三月まで二

年生六人を対象に十回にわたってセミナーを開きました。あおば館を「自分を見つめながら、自分の将来の夢を探す場所」と位置づけ、ルールと目的を確認、卒園生の体験から学んだり、職業サービスセンターでの性格・適正検査を受けたりしました。児童は二年生から考えることで、進路への意識が高まり、今後、担当指導員との連携を深めることで、より細やかな支援が期待できます。

浅田心理士の話

今年三年生になってセミナーを継続しているが、現実的な進路への不安に対し、心理士としてグループの中で解決していきたい。

あおば館 第三者評価に向けて

「第三者」は、あおば館が二十一年度福祉サービス第三者評価を受けるのに当たり、先進施設である東京都・至誠学園へ三日間の実習研修に行ってきました。同学園は①施設が考えていることや、何をしているかが分かる事業計画・事業報告がしっかりしている②業務削減の工夫



③第三者とは、児童であり、保護者であり、児童相談センターであり、地域であるとの共通認識

「③第三者とは、児童であり、保護者であり、児童相談センターであり、地域であるとの共通認識」

倉橋主任指導員の話

至誠学園で三日間勉強したことをきっかけに、これから姉妹施設となれるよう交流を深め、成長したい。

わかば館 被虐待児らへのSST

日本児童青年精神医学会総会では、わかば館大嶋隆志心理士、武市幸子館長が「発達障害児・被虐待児へのSST 情緒障害児短期治療施設での取り組み」を発表しました。発達障害児・被虐待児を多く抱えるわかば館では、治療・療育・教育・SSTを組み合わせて児童支援に当たっています。SSTの目的を①多動の是正②コミュニケーションの練習③自己肯定感を高

める」とし、中学生を対象に医師、指導員、保育士、心理士が一年間を通して隔週一回、実施しています。児童の苦手な課題、目標設定などを決め、「みんなの話を聞きましよう」「良いところをみつけよう」などのルールを基に、伝言ゲームなどウォーミングアップから始め五分のセッション。参加者には「メンバーズカード」を渡し、「全員、最後まで座っていたら十ポイント」などポイント制で目標を設け、「困っていること」「手紙・電話のマナー」などコミュニケーション、「面接試験対策」「職場体験」など



自立・社会体験をテーマに行います。その結果、「多動行動が明らかに、問題意識を持ち始めた」「お互いに高めあうことで自信を持てた」「困ったことを相談できるようになった」など児童の様子に変化が見られ、発達障害児・被虐待児への治療法としてSSTの可能性が明らかとなりました。

大嶋心理士の話

SSTは担当スタッフだけでなく全職員の支えで成り立っています。今後より良い結果が出せるよう全員で力をあわせてやっていきたい。

中日青葉学園 理念

「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

夏季球技大会 あおば館卓球団体戦 三年連続優勝

好天に恵まれた十八日のソフトボール、一回戦、あおば館は豊橋若草育成園と互角のプレーをするものの「さよならホームラン」を浴び五対六で敗れました。わかば館は勢いづいた若草育成園と二回戦で対戦、四対十のスコアで雪辱はな



みんなで力を合わせた 夏休み楽しい思い出いっぱい



① 夏の楽しみ

休みの楽しみ「キャンプ」は昨年同様あおば館、わかば館が分かれて行いました。あおば館は昨年は幼児、小学生、中学生と三つのグループでしたが、今年は目的別に五つのグループを作りました。



② 山登り

二十一日から二十二日、中学生八人が職員四人とともに長野県・御岳登山にチャレンジ。初日に山頂付近まで登り山小屋に宿泊、こ来光を見る計画だったが、あいにくのため、二日目は曇り空の下、田の原周辺を散策、温泉で



③ 郡上キャンプ

体休めて帰園。二十一日から二十三日、小学生十三人が職員七人と岐阜県郡上市大和町の母袋スキー場のキャンプ場へ。一日目、雨の中、スパーで買出した材料でカレー、焼きそば、デザートをみんで作って夕食。二日目、天気は回復したが、増水のたため川遊びに替えて城下町・郡上市の町並みを散策、夜は花火。最終日、水量が落ち着いたので場所を限定して川遊び、スパー銭湯で体を温めて帰園。



④ 山遊び

二十七日、二十八日、小学生から高校生まで六人が職員四人と郡上市へ。雨の中、チョッピリ寒かった鍾乳洞入場、流しそうめんを食べて、ウッドベイント。ひるがの山荘に宿泊。翌日、牧歌の里で牛羊にふれあい、オルゴール作りを楽しんだ。

⑤ 海のアドベンチャー

二十七日から二十九日、中学生十八人が、職員、ボランティア十人と福井県若狭湾へ。初日は敦賀市・松原海岸で体を休めて帰園。



わかば館

十九日から二十一日まで福井県三方町、三方青年の家で小学生から高校生まで三十人、職員十六人が参加した。初日は早めに宿舎に入り、飯ごう炊はんの夕食。二日目、敦賀市の松原海岸で海水浴、最終日は水晶浜に立ち寄るゆとりを持ったスケジュールで行った。天候に恵まれなかったが、協働性の育成などキャンプの目的は達成できた。



女子六年生が優勝、わかば館女子六年生が三位、中学生男子の部であおば館男子高校一年生が優勝、同女子の部であおば館女子中学二年生が優勝、同館女子高校一年生が三位に入りました。

県

児童福祉施設入所児童夏季球技大会が今年も、ソフトボールは八月十八日、幸田町とぼねグラウンド、卓球は十九日、日進市スポーツセンターで行われました。大会は四十五回目の伝統行事で、青葉学園は毎年参加しており、卓球ではあおば館Aチームが団体戦で三年連続、通算三十二回目の優勝、個人戦でも小学生男女の部、中学生男子の部、同女子の部の全部門で優勝、小学生男女、中学生女子の部で三位入賞しました。ソフトボールは二部にあおば館、わかば館の二チーム、卓球団体戦にあおば館A、あおば館B、わかば館の三チーム、同個人戦にあおば館十四人、わかば館六人が参加しました。

卓球に強い青葉学園

卓球は学園卓球部としてあおば館わかば館合同で年間を通して活動しています。「部活は楽しむもの。失敗を恐れず、全力で戦おう！」を目標に定期的に多目的ホールで練習、六月中旬は、日進市春季卓球大会に参加。夏の大会前には合宿を含め集中的に練習を重ね「卓球に強い青葉学園」の伝統を引き継いでいます。

女子六年生が優勝、わかば館女子六年生が三位、中学生男子の部であおば館男子高校一年生が優勝、同女子の部であおば館女子中学二年生が優勝、同館女子高校一年生が三位に入りました。

- ### 半年の出来事
- 9月 27日 あおば館名古屋港水族館名鉄観光の中日・阪神戦招待
 - 22日
 - 21日
 - 18日
 - 17日
 - 14日
 - 6日
 - 3日
 - 29日
 - 27日
 - 26日
 - 25日
 - 22日
 - 19日
 - 18日
 - 14日
 - 7日
 - 30日
 - 16日
 - 15日
 - 11日
 - 2日
 - 26日
 - 24日
 - 15日
 - 13日
 - 8日
 - 5日
 - 3日
 - 30日
 - 27日
 - 24日
 - 17日
 - 16日
 - 9日
 - 5日
 - 4日
 - 3日
 - 1日
 - 23日
 - 19日
 - 18日
 - 17日
 - 8日
 - 7日
 - 6日
 - 4月



りませんでした。敗者親善試合では、あおば館は十対三で平安寮に大勝、わかば館は暁学園と六対六で引き分けました。

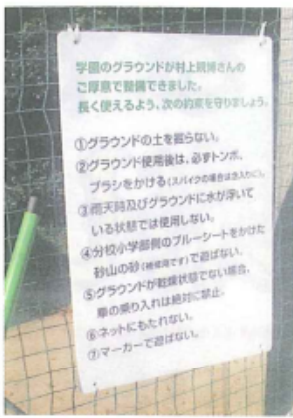
あおば館監督の高崎孝一係長は「今年は一回戦で惜しくも負けましたが、来年は子どもと一緒に優勝目指して頑張ります」、わかば館監督の園原基治指導員は「声を掛け合い、最後まであきらめずよく戦ってくれました」と振り返っています。



ちびっこ青空広場新設、グラウンド改修

あおほ館東側のスペースに幼児遊び場「ちびっこ青空広場」が完成しました。学園では、グラウンドと青葉分校の間に二年前に設置した児童遊び場がありますが、小学生以上のもので、幼児が遊ぶところがありませんでした。遊具は、滑り台、スプリングの乗り物、砂場、しらかば、けやきホームのペランダとの境には花壇を、園内通路との境には木製フェンスを配置、敷地全体に芝を張りました。ルールを決めて仲良く遊んでいます。

学園と青葉分校のグラウンドは、これまで少し傾斜があるため雨天時には、表面の土が流れ出て深いところでは五、六センチもの「谷」がいくつもでき、後の整備が大変でした。夏の球技大会に向けた練習に間に合うよう五月から六月にかけて、専門の会社に整備工事を発注。雨が一時に流れ出ない



よう傾斜を緩やかにしたうえ、表土をグラウンド用の土に入れ替えました。使用に当たっての留意点を明記したサインを二ヶ所ずつ設けて、楽しく安全に遊べるよう呼びかけています。二件の費用は名古屋市・村上規博さんからの寄付を充てました。有難うございました。

インフルエンザ
全国に広がっているA型インフルエンザ。この夏前から「うがい」「手洗い」「せきエチケット」を呼びかけてきました。が、学園でも九月、新学期が始まって高校生を皮切りに感染者が続いています。発症者は別室で療養、居室の空気清浄・加湿、消毒、マスク着用などの対策を採っています。尾張地区では小中高校でも学級、学年閉鎖が相次いでおり、十月末の恒例の青葉まつりは「学園内部のみの実施」と縮小を余儀なくされました。

今年春以降、十月上旬までに多くの方から「支援をいただきました。児童の健全育成、園内安全対策などに役立ててまいります。ありがとうございます。」というお言葉をいただきました。
江原啓之(三百万円)服部工務店、中日新聞印刷(三十万円)木下サーカス、兼松エレクトロニクス、日進電気、ヴァリダックス、鬼頭昌子、丸新舎、中日ドラゴンズ、ナゴヤドーム、中日電光ニュース、中日高速オフセット印刷、名古屋タイムズ印刷、中日オフセット印刷、中日制作センター、中日エージェンシー、中日アド企画、中日アドレップ、中部日本ビルディング、中日サービス、大日

ありがとうございました

本印刷、ファレス(十万円)東名古屋中日サービスセンター(六万円)共生印刷、中日ショッパー、産通名古屋支社、横井太(五万円)中日企業、中日興業、瀬戸中日サービス、中日稲沢サービス、中日犬山サービス、半田中日サービス、岡崎中日サービス、豊川中日サービス、中日総合サービス、中日広告センター、中日三河折込、中日折込、西尾中日サービスセンター、古川博三(三万円)大島寅夫(二万円)相羽泰彦(一万二千元)高島良樹、真能秀久、加藤幹敏、荒屋昌夫、高橋昭彦、M(一万円)夢シート、劇団飛行船、中部善意銀行、野外民族博物館リトルワールド、日本

多額寄付
スピリチュアルカウンセラー・江原啓之さんから今年四月、三百万円の寄付がありました。一昨春秋、名古屋で開いた二十周年記念チャリティコンサートに際し「子どもたちに夢を」と百万円いただいたのに続いていること。九月十五日、名古屋・しらかわホールでのリサイクルに園長が招かれたのに併せ、感謝状を手渡ししました。



きれいな花を有難う
あおほ館横の園内路を挟んだ花壇で、四季折々の花が子どもたち、職員を癒しています。ボランティアなど目を楽しませるだけでなく、クチナシ、沈丁花など香りも季節を知らせてくれます。



平成20年度 中日青葉学園決算

あおほ館				わかほ館			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
措置費	184,444,106	人件費	137,059,581	措置費	140,444,008	人件費	104,823,340
補助金	14,703,700	事務費	16,467,698	補助金	5,367,000	事務費	11,875,300
寄付金	5,474,478	事業費	51,233,553	寄付金	455,998	事業費	25,971,356
雑収入	4,741,586	固定資産取得費	6,350,525	雑収入	1,376,742	固定資産取得費	2,703,484
利息	35,683	改修工事費	2,215,319	利息	21,083	修繕引当金	1,000,000
繰入金	10,000,000	修繕引当金	1,000,000	繰入金	8,500,000	次期繰越金	9,791,351
		次期繰越金	5,072,877				
計	219,399,553	計	219,399,553	計	156,164,831	計	156,164,831

社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話052(22)10580
ファクス052(22)10839
中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164
児童養護施設「あおほ館」
電話0561(72)0134
ファクス0561(74)2315
児童心理療育施設「わかほ館」
電話0561(74)7752
ファクス0561(72)7557

編集後記
今年四月の児童福祉法改正で、被措置児童虐待防止のため職員の見守り体制はもろろん精神的虐待も関係者に通告が義務付けられました。社会的養護が必要でお願いしている児童に施設職員がいかなる「虐待」もしてはいけないことは当然のことです。どんな時にも手を上げず、威圧的な対応も取らないことを肝に銘じて支援に当たりたいと思います。(M・M)